

Close up



## そぎいの魅カラボ-MOLp®- 感性からカガクを考えるラボラトリー

三井化学グループのオープン・ラボラトリー活動、MOLp® (Mitsui Chemicals Material Oriented Laboratory) は2021年7月13日から17日の5日間、単独展示会「MOLpCafé2021(モルカフェ2021)」を開催しました。2018年の初開催から2度目の開催となる今回のコンセプトは“NeoPLASTICism -脱プラスチックから改プラスチックへ-”。急激な社会変化の中で、これからの社会に素材がどのように貢献していけるのか、その可能性を「Beyond(プラスチックというイメージを超えて本質的価値の追求)」と「Survive(プラスチックだからこそできる価値の提供)」という2つのキーワードで展示しました。

MOLp®は、素材や技術の機能的価値や感性的な魅力を再発見し、コミュニケーションを通じてこれからの社会にシェアしていくことで、素材の未来を切りひらいていきます。

## 素材メーカーが手がける アップサイクルプロジェクト「RePLAYER™」

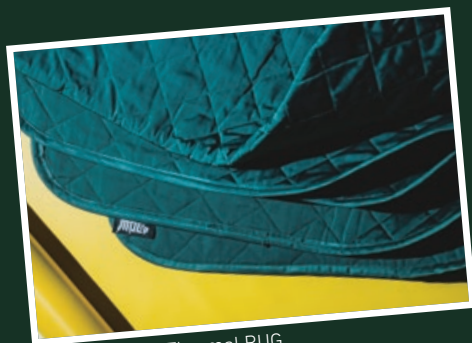
15年間使用した、プラスチック原材料であるペレットを入れる物流用の大きな袋、フレコンをバッグにアップサイクル。購入者に対し、バッグの情報を代々記録していくNFT(非代替性トークン)によるブロックチェーン・トレーサビリティの仕組みを導入し、より長く愛してもらうことでプラスチック素材のロングライフ化と新しい価値取形の形を提案しています。アップサイクルプロダクトとしては、ほかにもメガネレンズやレジ袋のアップサイクルも提案しています。



アップサイクル・バッグ

## リサイクルしやすいプロダクト提案 「MonoMaterial Thermalism」

循環経済の実現に向けたキーワードの一つ、素材のモノマテリアル化。当社グループ独自の素材であるオレフィン樹脂TPX®は、最軽量、高耐熱、離型性を特長とする素材。そのTPX®を糸に加工すると、「あったかい」ことが判明。TPX®の特長を活かして単一素材でどこまでできるかを実験した結果、TPX®だけでできた軽くてあったかく、汚れもすぐに落ち、乾燥時間も短縮できる特長のラグが完成しました。キャンプシーンや被災地での使用など、新たな可能性を提示しています。



Mono-Material Thermal RUG

## MOLp®にかける思い

世界で初めての人工合成プラスチックであるペークライトが発明されたのが1907年。それ以来、プラスチックと人間の付き合いはわずか114年であり、木や石、金属やガラスと比較しても非常に短いです。そういう意味でもプラスチックはまだまだ人類が慣れ親しんでいる素材ではないと思っています。また、素材は加工技術を含めた人の創造力と組み合わせることで、常に新しい時代を生み出す原動力として機能してきました。時代が変わるときには必ず素材と人の創造力が必要となってきます。プラスチックはまだまだ人に慣れ親しんだ素材ではないからこそ、より人に寄り添うようなアプローチが必要だと考え、アイデアや可能性を広くシェアし、様々なステークホルダーの皆様とディスカッションしていく目的でMOLp®の活動を行っています。



ESG推進室  
気候変動・プラスチック戦略  
グループ

松永 有理